

基本の応対《パニック時の応対》

こんな様子が見えたらパニックになっている
可能性があります

- わーっと走っていってしまう
- 大声を出したり、奇声をあげる
- 飛び跳ねたり、泣き叫ぶ
- 耳をふさいで固まってしまう
- 柱などに頭をゴンゴンとぶつけ出す
- 怒り出したり、暴れて、周囲の人に乱暴をする
- 動悸、胸の痛み、めまい、吐き気、息苦しさの訴えがある
- 急に気分が悪くなり、早く乗り物から降りたいという希望がある

応対ポイント

まず、生命の危険を回避し、怪我
などをしないように応対します

- 走っていく方向によって危険を感じたら（例えばホームから転落しそうだったら）、後を追いついて止めます。
- 危険な場所や物から遠ざけることが必要です。「大丈夫です」と声をかけ、「危ないので一緒に〇〇（具体的に）へ行きます」など、何をするかを具体的に伝え、安全な場所に誘導します。



応対ポイント

次に、落ち着けるように
不安などを取り除きます

- 強引な応対はかえって不安が増大する場合がありますので、安全な場所ならば、そのまま落ち着くまで見守ります。
- しばらく休めば治る場合もあるので、安心して休養ができるようその場から離します。必要に応じて救護室や別室に案内し、静かなところで落ち着けるようにします。

応対ポイント

必要があれば保護者等へ連絡を
とります

- 「連絡先を教えてください」と本人に尋ねます。答えられない場合は、「連絡先を知りたいので、一緒にカバンを見ましょう」などと不安にさせないように声をかけ、一緒に確認します。
- 本人の障害への配慮や連絡先を記載した連絡用のカード（「サポートカード」や「助けてカード」）を持っている場合がありますので、確認してください。（→参考資料 P.15 参照）
- 胸の痛みなど、体調の異常を訴える場合は、救急車を要請します。その他体調や精神症状の異常がみとれたときは、地域の精神保健福祉センター、障害者支援センター、特別支援学校などへ連絡します。そのため、事前に地域の主要な連絡先を確認しておくことが求められます。（→参考資料：P.16 参照）

★なぜパニックになるのでしょうか？

- 予定外のことが起きたり、こだわりの強いことが思うとおりにならないことでパニックになる人もいます。
- 聴覚過敏により音に敏感で、大きな音などに反応してパニックになる人もいます。知覚過敏としては、においに反応したり、急に知らない人に触れられてパニックになる人もいます。
- 狭いところ、人混みなど苦手なものに対してパニックになる人がいます。
- 体調が悪い場合や過去に怖い経験をしたなど不安になるきっかけがあるのかもしれませんが。